

「もう一度感謝！！」 ～原点回帰で建て上げ～

コロ2:1~9

経営破たんをしてしまった、JAL。もう一度昔の白鶴のマークに戻し原点回帰をしようとしています。それより前にANA（全日空）は初心に帰るということで、20年前のデザインの飛行機を復活させていました。ANAは人から影響を受けずに自分たちで考えて行っています。遅咲きではありますが自分たちで問題点を感じてサービスや飛行機の整備など順調にしています。あなたは最初の思いに立ち返るときに何を通してやっているでしょうか。向き合っていく過程で何をファンデーションにしているでしょうか。誰かに忠告されて直すのか、言われても直さないのか、自分で気付いて直すのか・・・神様が本来せっかく自分で自分を診断する機能を与えられているのに人から言われて「仕方ない。ここまで言われるのなら」と変えていく人生なのです。ありのまま神の前に出て行けばよいといいますが、自らがどういうものをわかっているからありのまま出られるのです。しかし私たちは「ありのまま」を気付いていないので、着飾ったまま出てしまうのです。着飾ったままではなく本来の姿のまま出てきなさいと神様は言っています。「あなたがもしあけるなら・・・」聖書では絶対に「もしあけるなら・・・」なのです。神様は私たちをご自分に似るように作った時に自らが自らでわかるように作りました。自分たちがしていることを考え、それがふさわしいかどうか思うように作ったのです。そして聖書の中でしていいこととしてはいけないことを（特にしてはいけないこと）を教えたのです。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。」（創2:17）私たちはしていいことしか決めておらず、それ以外のことはしないと決めているので、自らを見直したときに、新しい分野で神様がこういうことをしなさいと言われた時にできないのです。自分がこうだと思っていることを否定されると辛いのです。だから私たちは神の前に、作られた本来の姿に戻らなくてははいけません。神様は全てしていいと言っているのです。「すべてのことは、してもよいのです。しかし、すべてのことが有益とはかぎりません。」（1コリ10:23）人がこういったからこう決めるではなく、神様がこうしなさい、こうしてはならないと言われていることがあるはず。隣の人が気付かされて悔い改めている姿を見てそうしなくてはというのもひとつですが、それだけでははいけません。あなたが示されたテーマに気付かず、人に言われてもそのまま腹を立てて変わらなければ多くの人があるあなたの気付かないところで苦しむし、あなた自身も痛いのです。（コロ2:1~9）日常の中でどんなことを感謝していますか。普段から感謝している人はいつも感謝が出てきます。祈りの中で日々の中で一緒にいる人や自分に関わる人に感謝しているでしょうか。感謝がなくなることが「当たり前になる」ということであり、これがあなたの人生を蝕み、一番だめにするものなのです。あなたが今生活している環境を当たり前だと思い執着し、固着してしがみつくと、感謝することなく生きているのであれば怖いことです。聖書は富むことを否定しているわけではありませんが、私たちがそれに執着し固着することがいけないと言っているのです。私たちの暮らし向き、立場・・・そして信仰も執着なのです。「だれもまたこしやかな議論によって、あなたがたをあやまちに導くことのないためです。」（4）この当時の人は聖書について議論することが好きだったのです。単純に「イエス様を信じたい」という気持ちが失われていたのです。聖書に書かれている信仰の土台を自らの価値観で変えてしまうのです。聖書を読んで霊で感じればいいが、自分の価値観、経験で読むことが危険なのです。だからキリストの中に根ざしなさいと言っています。イエス様ならどうするか・・・あなたの霊は神様とつながっているのですから神様と向き合ったときにわかるのです。私たちのしていることがどうか神と向き合ったら解決できますが、人々はその価値観を人と共有しようとしたのです。神様と霊がつながり自分の良心が「正しい」と認識できれば必ず実を結びます。「神様に聞いています」と言いながら栄えないのだとしたら、プロセスのどこかが間違っているのです。人が「こうだ」と言ったことは一つの説に過ぎませんが、「こういったからそうだ」と自ら考えずに全てを信じる、これが聖書で言っているまやかしごとの議論です。「あの人がこういったからそうする」私たちは人に言われたから直すのですが本来人に言われて直すのではありません。人に影響を与えるのならよいのですが、人から言われてではクリスチャンとして意味がありません。だから原点に帰ってほしいのです。自分が何をするためにするのかそのために自分のカラーを出す必要があるのです。あなたはもう神様が語る深い言葉を聴けるはずですが、神様から聴こえてくる言葉を聴く準備があるかどうかです。あなたが感情や価値観で聞いていると神の深い声は聞こえてきません。あなたの弱い部分に強く立てよと言っていますがそれは、あなたと神様と向き合って知らなくてははいけません。自分の弱さを知り、かつどの部分を直せばよいのかということを感じなくてははいけません。私たちは神様に言われたことを「本当？」と思う部分を与えられていますが、神様はそのうえで私たちに決断させようとしています。「空気を読む」ではだめなのです。空気を読んで言わないのではなく、神様に語れと言われたのなら語らなくてははいけません。「誰かに追いつきたい・・・」人が人を目標にしても人を越えられません。神に向けばその人を、人以上にできるのです。だから人まねではだめなのです。人の言葉を考えてもダメなのです。神様はあなたの計画がなされるためにあなたに教会と言う家族を与えています。その教会の中で学ぶ側ではなく影響を与える人になる必要があります。そのためには神様が聖書の御言葉をを通して語っているどうしなくてはならないのかを聞いてほしいのです。あなたを見失わないために**①キリストに根ざす**。イエス様がどんな人だったかを思い返してください。そうすればもう一度感謝できるはず。原点に帰れるのです。あなたは弟子になったのです。あなたが任された羊の牧師であるべきです。あなたは岩であるべきです。あなたの子供が出来て初めて岩です。あなたに聞き、学び、習っている人がいますか。散らされていた私たちが集められ、そしてまた散らされるのです。エクレシアにならなくてははいけません。そうやっていけばキリストに根ざした意味があるのです。あなたから実をならさなくてははいけません。人がやっているからではなく、あなたがやるべきです。感謝があるからです。（エペ3:16~19）キリストに根ざすとは愛に根ざすことです。神様に感謝があって自分がやらなくてはと思ったら伝えずにはいられないし任されている人を放置することはできません。放置しているとしたら根ざしていない証拠です。誰かがやると思っているからです。しかしあなたの実はあなたの枝になっているのです。**②信仰を堅く**。（マルコ7:7~9）自分の経験や価値観を守るために神の戒めを軽んじているところがあるはず。人間の価値観にたっちはいけません。**③全てにあふれる感謝**。どんな状況であっても、なぜ今ある現状に感謝できるのでしょうか。今を見ているのではないからです。必ず神様が必要なことを答えてくれるからです。今の現状に目を向けていることに問題があるのです。一つのこと右往左往するのは信仰に堅くたっちはいけません。だからすべてのことに感謝して待つ必要があるのです。（詩103:1~5）あなたが救われたことを忘れてはいけません。神につながってあなたの使命を全うする人生にしてください。あなたのことをあがった人がいるのです。感謝することを忘れず、キリストに根ざした歩みをしていきましょう。（要約者：岩崎祥誉）